東京言語研究所
集中講義のご案内

東京言語研究所では、言語学を研究されている方や言語学に興味をお持ちの方を対象〔理論言語学講座〕をはじめとして様々な講座を開講しております。＜集中講義＞は、多様な研究の一領域を集中的に学べる講座です。ぜひご参加ください。

＜演題＞ ウィトゲンシュタインの言語観

＜講師＞ 野矢　茂樹氏（立正大学教授）

＜日時＞ 2022 年 3 月 12 日(土) 10:30～16:15 （90分講義×3コマ）

13 日(日) 10:30～16:15 （90分講義×3コマ）

＜講義形式＞ 対面講義(先着 15 名)および ZOOM によるオンライン講義

＜参加費＞ 一般 12,000 円

2021 年度理論言語学講座受講生 9,000 円

＜申込み＞ 公式サイト「申込みフォーム」もしくは QR コードよりお申込ください。

※ 申込み受付 2 月 18 日(金)～3 月 7 日(月)まで 10:00AMまで

講師紹介:

立正大学文学部哲学科教授　専門は哲学。

東京大学大学院博士課程単位取得退学。

主な著書に、『論理哲学論考を読む』(ちくま学芸文庫、2006 年)、『哲学・航海日誌』(中公文庫、2010 年)、『大森荘蔵』(講談社学術文庫、2015 年)『心という難問』(講談社、2016 年)、『語りえぬものを語る』(講談社学術文庫、2020 年)、『哲学探究という戦い』(岩波書店、2022 年)など。

○ 問合せ先

公益財団法人ラボ国際交流センター　東京言語研究所

〒169-0072 東京都新宿区大久保 1－3－21　ルーシッドスクエア新宿イースト 2 階

TEL:03－6233－0631　FAX:03－6233－0633

E-mail:info@tokyo-gengo.gr.jp　ホームページ:http://www.tokyo-gengo.gr.jp/

講義概要

ウィトゲンシュタインの言語観について講義します。ウィトゲンシュタイン哲学は大まかに前期と後期に区分され、その間に過渡期があります。前期は「像理論」と呼ばれる考えを展開し、後期は「使用説」と呼ばれる考えを展開したなどと解説されることもあります。それはまったくまちがいとまではいいませんが的を外した見方です。私の考えでは、『哲学探究』以前（前期と過渡期）の言語観と『哲学探究』以後（後期）の言語観の違いは、ひとことで言えば「空間から時間へ」というものです。ウィトゲンシュタインは可能性の総体を「空間」と呼びます。日常的に「空間」と呼ばれる三次元空間は、物が位置する可能性の総体ですから、より一般的な空間概念の一例です。『論理哲学論考』（前期）は「論理空間」という概念を中心に据え、『哲学探究』へと移行する過渡期においては「色空間」等の概念が重要なものとして登場しました。ともに「空間的」に言語を捉えています。しかし、言葉は本来時間の流れの中で使用されるものです。それを可能なかぎりそのままに捉えること。空間的に捉えられていた言語を時間の流れへと解き放つこと、それが『哲学探究』以後の言語観の核心だったというのが、私の捉え方です。『ラスト・ライティングス』第913節に「言葉はただ生の流れの中でのみ意味をもつ」という言葉がありますが、それは後期のこの言語観を端的に言い表わしたものと言えるでしょう。

12日（土）		13日（日）	
10：30	講義―1	10：30	講義―4
12：00	講義―1終了　休憩	12：00	講義―4終了　休憩　昼食
13：00	講義―2	13：00	講義―5
14：30	講義―2終了　休憩	14：30	講義―5終了　休憩
14：45	講義―3	14：45	講義―6
16：15	講義―3終了	16：15	講義―6終了